

## 課題⑥

### オーディション対象…政治家

設定…旅客機の機内、C Aにケチをつける乗客・斉藤

場所…出発前の航空機の座席

ステイタスの高い乗客が先に乗り込み、続いて一般の乗客が後部座席から順に搭乗するの決まりだが、斉藤は、それを無視して早々に乗り込み、自分の座席まで来ると、荷物を上の荷物収納スペースに放り込み、ドカッと座席に座った。

一般客の斉藤には、本来ならC Aが座席に赴いてまで挨拶する対象ではないが、要注目人物としてブラックリストに載っている斉藤は、普段からC Aの挨拶を受けることに慣れている。

この日は満席に近く、C Aも出発前の準備に忙しかった。たまたま斉藤の隣に座った本当にステイタスの高い乗客にC Aは早々に挨拶をすると、そのまま仕事に戻った。斉藤のところにC Aが挨拶に来たのは、それからしばらく経ってからのことである。明らかにいらいらした様子の斉藤。

C A「斉藤様、いつもご利用ありがとうございます。」

むっとした表情の斉藤。

斉藤「さっきのことだけだね。」

斉藤の声は、他の乗客は気づかない程の小さな声である。怪訝そうな顔をするC A。

斉藤「お嬢さん、ちゃんと考えたことあるの。」

C A「申しわけございません、斉藤様。」

斉藤「申しわけないじゃなくて、ほんとにわからないの?」

困った顔をするC A。

斉藤「いい客に挨拶するのはわかるけれど、隣に座っている客の顔も見ないで立ち去るのは、その客がどんな気分になるかって、考えたことはないの?」

C A「…」

斉藤「僕は別に乗客全員に挨拶しろと言っているわけじゃないけど、変に差をつけるくらいだったら、最初から挨拶なんかやめたほうがいいんじゃないかと思うんだけど。あ、これはあくまでも僕個人の意見なんだけどね。」